

良

良は、古い字形が𠄎、目と人との会意字です。「見(見)」と反対の形ですので、後ろをふりかえって見ている形です。“ふりかえる”のが本義で、“立ち止まる”という意味に使われます。音は見^{ケン}の変化したコンです。

限は、崖(阝)に“立ち止まる”という意味の良とで、それ以上進まない。つまり、“ここまでと**かぎ**る”ことを表わした字です。「極限」「制限」「限界」というように使います。音は見^{ケン}が濁ってゲンです。

根は、“立ち止まる”という意味の良と木とで、木がしっかりと立っている“もと”である“ね”を表わしたものです。木は“ね”によってしっかりと立っていただけるわけです。木の最も大切な部分というので、「根本」は、“大切なもの”ということの意味します。根気、根性。音は良^{コン}です。

眼は、根の意味の良と目との会意形声字です。目は単に目という物体を表現した文字ですが、眼は、見るという働きを持った目の内部構造までを含めた意味の“め”です。だから、目に見えない部分を含むことを良によって表わしたのです。「眼力」は、単に目でなく、見る

働きとしての目の力という意味です。眼識、眼光、心眼。

恨は、心の中に根をはったように、いつまでも忘れられない深い“うらみ”のことです。よくいう「根^ねに持つ」「根に思う」という“うらみ”方です。「憾」は、一時的な感情で、その場限りであとに引かない“うらみ”です。「怨」は、仕返しをしたく思う“うらみ”です。「懟」は、お互いに“うらみ合っている”うらみです。「愠」は、だれという特定の相手のない“うらみ”です。

痕は、疒と良との会意形声字です。木は切ってもあとに根が残るように、病気がなおっても、あとに残る“きず”あとを「痕」と言うのです。今では、病気やきずに関係なく、“あとに残ったもの”を言います。「人の住んでいた痕跡もない」「墨痕鮮やか」。

跟は、“足の根”という意味で、くびす(きびす = かかと)を表わした字です。音は良です。“人のかかたに続く”という意味で、“隨行”の意味にも使います。**跟隨**、**跟從**。

銀は、“金に続く”という意味で、金に続く価値を持つ金属を表わした字です。金はこがね(黄金)、銀はしろがね(白金)、銅はあかがね(赤金)、鉄はくろがね(黒金)と言います。